



学校だより

児童数：629名（男：342名 女：287名）

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



きんもくせい

読書・・・その環境を整える・・・。

校長 戸野塚 晃

校庭の木々の紅葉が深まってまいりました。金木犀の香りも校庭いっぱいになり、木陰に入ればひんやりとした空気が静かに流れています。喉元過ぎれば熱さを忘れると言いますが、知らず知らずのうちにあの夏の暑さの記憶をどこかに置き忘れてしまっている自分がいます。



さて、学習、運動そして、行事等に非常に取り組みやすい季節になりました。集中しやすく、成果も見えやすい時期です。それは、タイトルにもある通り、読書活動においても同様かなと考えております。では、そのことを踏まえて、左手の写真をご覧ください。説明は不要かと思えます。先日、21歳にして将棋界の頂点であるタイトルをすべて手にする前人未到の八冠を達成した藤井聡太さんの記事です。天才、数十年に一人の逸材、などの言葉がメディアを騒がせています。私は、無敵の強さを誇る今の姿ももちろん関心はありますが、では、幼少期の頃の姿はどうだったのか・・・あの集中力の元はどこにあるのか？そんなところにも

興味がわき、特に読書にまつわるこんな記事を見つけてきました。ある稀代の起業家・経営者との対談から一部抜粋してご紹介します。

Nさん「子どものころから真面目でしたか？ また、自分の成長が周囲の大人からの影響を受けていたと感ずることがありますか？」

藤井さん「それほど真面目ということはなかったと思います。(略) 特に子どもの頃の周囲の環境はすごく大事だなと思います。自分は遊びに集中させてもらったり、悔し泣きをしてもらって温かく見守ってもらえたりなど、環境が整っていて恵まれていたのかなと思います。」

Nさん「子どもの頃はどんな本を読んでいたか？ (略) 小学校の図書室で子ども向けの本を借りたりすることはなかったのですか？」

藤井さん「母に聞いたのですが、小学校低学年の頃は、スマーフシリーズやタンタンの冒険シリーズなどを図書館で借りていたそうです。(略) 低学年の頃は、かいけつゾロリシリーズとかマンガのブラックジャックとか読んでいたと思います。次第に図書室の本よりも家にある本を読むことが多くなっていきました。」

Nさん「科学系の本だと、物を考えるという意味では多少は影響があるかもしれないですね。」

藤井さん「そうですね。そういう本に触れたことで、好奇心は強くなったのかなと思います。」

Nさん「藤井さんは読書のどういうところが面白くて、何を感ずていましたか？」

藤井さん「(略) やはり本を読むことで、普段の生活をしているだけでは見えない世界、景色を見ることができ、そういった体験が面白かったのかなと思います。 ※初の対談本「考えて、考えて、考える」から一部抜粋

驚くことに将棋界の王者も幼少の頃は、だれでも一度は手にするような本からスタートしているのです。そのスタートラインを考えれば、将来前人未到の八冠を達成することになるとは夢にも思わなかったはずですが、コメントにもある通り本を読むことにより、見えない世界が見えてくるのが面白かった、好奇心が強くなっていった・・・そこにその小さな感動が積み重ねられることにより誰にも負けない集中力と根気強さが身に付いていったのではないのでしょうか。そして、何よりも本人の好奇心の高まりを見守ってくれる環境が整っていたことは言うまでもありません。環境は大人が整えます。その環境の中で子どもは成長します。教師である以上、いつでも子どもの好奇心を大切にできる、その心構えを常に持ち続けたいと考えます。

まだまだ気温の寒暖差が気になる毎日です。地域、保護者の皆様におかれましては健康にはくれぐれもご自愛いただき、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。